りんご生産情報　５月　１回目外勤号

令　和　６　年　５　月　２　日
ＪＡつがる弘前　東地区営農係

東地区管内のふじの開花は薬師堂で4/27、狼森・森山で4/28、駒木で4/30、碇ヶ関（古懸）で4/29に確認されました。園地によってバラつきが見られるものの平年より約１０日程度早い状況です。気象庁による１か月予報では、引き続き平均気温は平年より高い予報となっているため、園地の状況をよく確認して、作業を進めるようにしましょう。

１．ふじの生態

（　　）は予想です。

区分	地域	年度	展葉日	開花日	満開日
JA 生育観測圃	薬師堂	本年	4/11	4/27	(5/2)
	狼森		4/12	4/28	(5/3)
	森山		4/12	4/28	(5/3)
	駒木		4/13	4/30	(5/5)
	碇ヶ関（古懸）		4/12	4/29	(5/4)
りんご研究所	黒石市		4/11	4/27	－
		平年	4/18	5/7	5/12

２．薬剤散布　→　10 日間の散布間隔と降雨前散布に努めましょう。

散布回数 散布時期	１0a 当たり 散布量	基準薬剤	倍数	１，０００ℓ 当たりの薬量
第2回目 開花直前	３２０ℓ	カナメ（F） バイオマックス（DF）	４，０００倍 ２，０００倍	１本（２５０ml） １袋（５００ｇ）
第3回目 落花直後	３５０ℓ	ミギワ２０（F） チオノック（F） バイオマックス（DF）	４，０００倍 ５００倍 ２，０００倍	2本（125ml×２本） １本（２Ｌ） １袋（５００ｇ）
5月中旬頃　～		コンフューザーR （５０本/１袋）	１００本/１０a	
第4回目 落花１０日後頃	４２０ℓ	ユニックス（顆粒水） ジマンダイセン（水） クレフノン（水）	２，０００倍 ６００倍 １００倍	１袋（５００ｇ） １袋（１．６７㎏） １袋（１０㎏）
第5回目 落花２０日後頃	４２０ℓ	デラン（F） ダイアジノン（水） クレフノン（水）	１，５００倍 １，０００倍 １００倍	2本（３３３ml×2） 2袋（５００ｇ×２） １袋（１０㎏）

コンフューザーRの設置

昨年、リンゴコカクモンハマキやモモシンクイガの被害果が見られている園地では、コンフューザーRを設置しましょう。５月中旬頃～５月下旬頃に設置し、次世代の密度低下に努めましょう。

○　結実確保対策　○

本年は生育が早く、凍霜害のリスクが高まっています。また近年、園地によってカラマツなどが見られています。特にふじの単植園や授粉樹の少ない園地、花芽の少ない園地では、マメコバチの管理を改めて徹底するとともに積極的に人工授粉を行い、結実確保に努めるようにしましょう。

めしべの受精能力は、開花後４～５日程度あるので、降雨で葯が褐変した花でも授粉するようにしましょう。

３．摘果について　→　つがるや黄色品種は早めに！

（１）生育期間の短いつがるや、成らせ過ぎの傾向がある黄色品種については、『早く強い』摘果が重要となります。

（２）果実形質の良しあしが判然としない「落花 10～15 日後頃」までは一つ成り摘果を行いましょう。判別が可能になった時点で、仕上げ摘果へ切り替えましょう。

４．摘果剤について　→　生態が早く進んでいることから、散布タイミングを逃さないように！

（１）摘果剤ミクロデナポンの効果を最大限発揮させるため、散布量は３５０Ｌ以上たっぷり散布しましょう。

（２）効果は散布 7～10 日後から見え、中心果と側果の大きさに差があるほど効果が高まります。なお、極端な乾燥時や樹勢の弱い樹には、散布を控えてください。

使用方法	品種ごとの散布適期	散布目安	備考
ミクロデナポン水和剤 1,２００倍 ３５０ℓ以上／１０ａ 展着剤を加用	ふ　じ　　8～10㎜ 王　林　　12㎜	5/16 頃～	・ふじ、王林では、満開２週間後が散布適期の目安です。 ・つる割れ防止（ヒオモン 3,000 倍）を使用する方は摘果剤散布から２週間あけましょう。